第13課　病気（その１）

１．この課のねらい

(1)　病気になったとき、救急車を呼んでもらうなど、病院に行くための適切な措置がとれるようにする。

(2)　助けてくれた人への礼が述べられるようにする。

(3)　病院の受付で、指示を理解し適切な行動がとれるようにする。

(4)　症状について、言葉とジェスチャーを併用して説明できる能力を身に付けさせる。

(5)　医者の指示、質問を理解し適切な行動がとれるようにする。

２．学習項目とその扱い方

〔会話－１〕

(1)　学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○子供が　大変なんです。救急車を呼んでいただけませんか。(3)	○分かりました。すぐ　電話を　しますから。(6)
重要項目	○子供が　やけどを　しました。(5)	○どうしたんですか。(4)

(2)　準備

①学習者の家族構成、住居、電話の有無、隣近所の人たちとの付き合いの程度などについて調べ、なるべく実状に合うように内容や表現をかえた、応用会話を作りテープに録音しておく。

②〔５．表現練習〕（「イ形容詞」「ナ形容詞」の練習）に使えそうな物、又は、その絵や写真などを用意しておく。

(3)　導入

①教科書（P.169）の絵を見せ、「この車は何という車ですか」「何番に電話すれば来てもらえますか」「どんなときに電話をしますか」など、学習者に質問してみる。

②その後、会話本文のテープを聞かせて、学習者がどのくらい理解しているか質問してみる。（例えば「林さんの子供はどうしましたか」などの質問をする。）

③余裕があるようなら、応用会話のテープも聞かせて、「けが」「急病」などの関連語彙も習得させておくとよい。

(4) 練習

①会話本文及び応用会話を繰り返し練習する。

②「すみません。子供が大変なんです。救急車を呼んでいただけませんか」の「子供」を「家内」「主人」「母」などに、また、「子供がやけどをしました」の「やけど」を「けが」などにかえたりした置きかえ練習も行う。

③学習者に余裕があれば、「やけどをしました」のかわりに、「(人) が (患部) が痛いと言っているんです」も患者の症状を伝える表現として練習させてもよい。

④個々の発話に問題がないようなら、会話全体のロールプレーをする。

⑤〔1．表現練習〕を使って練習する。教授者の後に付いて繰り返させる。次に〔2．表現練習〕を使い、「林さんは何をしましたか」「だれが銀行へ行きましたか」などの質問の仕方とその答え方を練習する。さらに、学習者に余裕があれば、次のような会話練習をしてもよい。

練習例　A：どうしたんですか

B：林さんが銀行へ行きました。

⑥〔5．表現練習〕を使って〔イ形容詞〕と〔ナ形容詞〕の練習をする。準備した実物や絵、写真などを使う。〔イ形容詞〕と〔ナ形容詞〕の形の違いを定着させるために次のような形の練習をするとよい。

練習例：これは赤い靴です。　→この靴は赤いです。

あれは立派な建物です。→あの建物は立派です。

〔ナ形容詞〕「きれいな」は、「きれいです」の形にすると、〔イ形容詞〕と同じ形になってしまうので注意したい。反対の意味を表す形容詞を対にして教えると理解させやすい。

〔会話―2〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○昨日は　どうもありがとうございました。(3) ○おかげさまで。本当に　お世話になりました。(5)	○お子さん　もう　だいじょうぶですか。(4)
重要項目		○いいえ、また　何か　あったら　声を　かけてください。(6) ○お大事に。(8)

(2) 準備

〔会話―1〕と同様に応用会話とそのテープを作っておく。

(3) 導入

①〔会話―1〕のようなことがあった翌日、礼を述べるために隣人を訪ねるという設定で、学習者に本を見ないで会話をさせる。

②次に、会話本文及び応用会話のテープを聞かせる。

(4) 練習

①会話本文及び応用会話文のテープを繰り返し練習する。

②会話本文に出てくる表現(「昨日はどうもありがとうございました」「おかげさまで」「本当にお世話になりました」「ありがとうございます」「では、失礼します」など)は、このままの形で覚えておくと便利なので、なめらかに言えるようになるまで十分口頭練習する。

③「昨日はどうもありがとうございました」の「昨日」を、「先日」「昨夜」などにかえて練習する。

④次に、〔4．会話練習〕のような短い会話の形を練習し次第に長くしていく。会話本文の林さんの部分が問題なく言えるようになり、さらに、余裕があるようなら隣人の部分も言えるように練習しておくとよい。

⑤学習者が二人以上いる場合は、「昨日」や「お子さん」などの部分を次々にかえて学習者同士でロールプレーをさせるとよい。なお、言葉の調子や身振り、さらに表情にも十分注意し、自然で感じのよいあいさつができるように指導していきたい。

〔会話ー3〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○お願いします。(1) ○ええと、医療券なんですが。(3)	○はい、保険証、ありますか。(2) ○はい、分かりました。そこで　しばらく　お待ちください。(4) ○林さん、どうぞ　お入りください。(4)

(2) 準備

①学習者が病院に行くときに実際に持って行く保険証、医療券などを持ってこさせる。

②また、病院の受付という場面が作りやすいように、教室の机や椅子を並べかえ、「受付」「診察室」「会計」「～番」などと書いたカードを置いたりしておく。

③さらに、教科書（P.177～P.179）の〔関連表現〕を読んでこさせる。

(3) 導入

①「日本で病院に行ったことがありますか」「どんな病院のどこの科へ行きましたか」「病院に行くとき何を持って行きましたか」などと質問し、学習者が、日本の病院のことをどのくらい知っているかを調べる。必要なら〔関連表現〕を使って説明しておいてもよい。

②次に、教授者が受付係になって学習者に診察の申し込みをさせてみる。

(4) 練習

①会話本文のテープを聞かせて繰り返させたり、教授者の発話の後に付いて言わせたりして練習した後、教授者と学習者でロールプレーを行う。

②教授者は「そこでしばらくお待ちください」とか「どうぞお入りください」とかの指示のほか、「～番窓口までおいでください」「この用紙に記入してください」「診察室にお入りください」などといろいろ表現をかえて、学習者がその指示どおりに行動できるか確認する。

〔会話— 4 〕

(1) 学習項目表

区 分	使　　用	理　　解
最重要項目	○ちょっと　おなかが　痛いんです。(3) ○ 2 週間ぐらい前からなんです。(5) ○いいえ、吐き気は　ありません。(7) ○痛くありません。(9)	○じゃ、診てみましょう。そこに横になって。(8) ○ここは、痛いですか。(8)

(2) 準備

教科書（P.180～P.181）の〔関連表現〕を読んでこさせる。また、この関連表現を利用して、症状や医者の指示をかえた応用会話のテープを用意しておく。

(3) 導入

①〔会話— 3 〕に続けて導入できる。

②学習者が病院に行ったことがあれば、そのときの症状などを発表させてもよい。

③また、教科書の〔関連表現〕を見て、体の部位の名称を確認したり、医者の指示にはどんなものがあるか、実際に指示を出してそれに従えるかチェックしてみる。

④その後、会話本文と応用会話のテープを聞かせる。

(4) 練習

①〔会話— 2 〕と同様に練習する。

②〔 3 . 会話練習〕を使って典型的な症状の伝え方の練習をした後に、教授者が医者、学習者が患者になり、患者が診察室に入るところから出るところまで、ロールプレーで練習する。このときに、診察室への入り方、礼の仕方なども指導する。

③また、医者の質問や指示をいろいろ変化させて、学習者がそれに適切に応じられるようになるまで練習する。

3．文型・文法に関する参考事項

(1) 主格の「が」

この段階では、次の三つの用法に整理しておくとよい。

① 動作主体を問う質問に対する答えで

例　A：誰が銀行へ行きましたか。

B：林さんが銀行へ行きました。

② 従属節の中で

例　切符の買い方が分かりませんので教えていただきたいんですが。

③ 話の切り出しとなる文の中で

例　子供が大変なんです。

(2) 動詞の「～て」の形

1	カ行　書きます → 書いて	(焼く、聞く)	例外　行く → 行って
	ガ行　泳ぎます → 泳いで	(脱ぐ)	
	タ行　立ちます → 立って	(持つ)	
	ラ行　帰ります → 帰って	(切る、売る)	
	ワ行　買います → 買って	(言う、笑う)	
	ナ行　死にます → 死んで		
	バ行　飛びます → 飛んで	(呼ぶ)	
	マ行　飲みます → 飲んで	(読む)	
	サ行　話します → 話して		
2	見ます → 見て		
	食べます → 食べて		
3	します → して		
	きます → 来て		